

事務局 津田尚美 TEL.

編集 岸本桂子 TEL.

## わたしの時間

津田尚美

逐次刊行物

14.10.14

国立女性教育会館  
女性教育情報センター

佐世保の女性史研究会の人からBWの会の会報を送ってほしいとのことでしたので、私の手持ちを何部か送ったところ「グループ紹介」についている女性史研究の「さざんか学級」が自分達の会とよく似ているので、その後の「さざんか学級」との関わりとかテーマおこし等の様子を知りたい」とのことでした。私自身BWの会に入会し、事務局を引き受けてまだ日が浅いので「さざんか学級」のことが皆目わからず、代表者の松尾さんに電話したところテーマおこしは中断。今年は「文学にみる日本婚姻史」を研究中、又例会は昼間行なわれているとのこと。BWの会はあらゆる世代・環境・職業を越えての集まりということで例会は夜だと言ったところ「私達はごく普通の主婦なんです」と言われる。確かに主婦が何人か集まろうとする時は、

「夫が家にいない時」という暗黙の了解がある。夜は主人がいて出にくい。子供達によくない。家庭が大切。女が定期的に夜出かけるなんて考えられない。私も「ごく普通の主婦」のつもりだがBWの会の例会が夜ということにはさほど抵抗は感じなかった。自分と違った考え方。又は生活をしている人達と話をし、同じ時を持ちたいと思った時、たまたまそれが夜だ、ということでした。研究が単なる知識としてのみ終わるのでなく、自分の生き方としてとらえることができるように努力したい。

## 三月例会の報告 加藤奈智子

・日時、三月十五日(土)午後一時半～四時

・会場 市民会館知室

・出席者 十三名

「例会を昼にも計画してほしい」という会員の声で今月は土曜日の午後になった。会場は二十畳程の落ちついた雰囲気、部屋で靴をぬいで、ゆっくりとテーマルを囲み、岡本さん差入れのクッキーとみかんで赤ちゃんを交えた会となった。話し合いの内容

①文化講演会テーマの着字化

②はってんウーマン会パンフレット作成

③「女のノート」講入者名簿の作成

④老人問題の取りあげ方

⑤市長交渉

⑥「女のからだ」について討論

⑦映画「女ならやってみな」

⑧はってんウーマンの会十周年にむけての記念行事の検討

⑨「女のノート」売上げ金の使途について

今月は議題を決めてその料を討議するという形式ではなく、会員同志の意見交換の場としたら——という意見が出て、前月例会の討議内容の中より市長交渉についてをき、かけとして話し合いをすすめた。

(1)市長交渉について

・市長とは、はってんウーマンの会との懇談会という形式にして早い機会に実現したい。

・交渉に際しては、目的を明確にしなければならないので、

その具体化を検討する。(例えば、市女子職員の昇給昇格

問題について、ひいては長崎に於ける女性の地位の向上について。)

(2)映画「女ならやってみな」について

・「長崎行動を起こしたい女の会」のメンバーの人により内容の簡単な説明と券の販売依頼があった。(当会へ30枚委託)

(3)出席者の意見あれこれ

・地域住民(主に家庭婦人)に対しては、はってんウーマンの会からの積極的な働きかけをしたら?……講師の派遣など。

・読売新聞水曜日掲載の「女・からだ」担当の浅野博子記者の話を聞きたい。最近掲載された「女・からだ」の記事をコピーして回覧する。

・例会の中で会員同士話し合う(意見交換)時間を必ず入れてほしい。

以上のようなことについて、予定時間一杯参加者全員活発な意見交換が行われ、久しぶりに顔を出された会員の方々も、なごやかなひとときを過ごすことが出来たと思います。

## 新会員紹介

吉村和美

我が家では朝日新聞を購読していますが、よく女の問題について特集記事が掲載され興味深く読んでいます。

最近特に印象深かった子育て論争の時は、「母親は家に居るべきだ。」「いや女も外へ出て行くべきだ。」と両論相譲らずけんけんどうごうと議論が闘われていました。

私は、双方ともなるほど頷ける部分がありますから、どちらが正しいと決めつけるのは所詮無理なことだと思います。人それぞれ個性があり、生まれ持った才能や興味の対象が異なっている、当然だと思います。ですから、仕事に生きがいを持って外へ向かうのも善し。家庭で主婦業に励むのも善し。自分の道は自分で決め、他の人の生き方に対しては、それはそれで正しいのだと認めることが必要だと思います。

よく、母親が働きに出てゐる家庭に対して専業主婦が「だから母親が働いている家の子は……」とか「おそこまでしてお金もうけをしたいのかしら。」と腹口を叩いたり逆に働いている人が専業主婦に対して「三食昼寝つきで家に居て、一体生きがいを持ってゐるのかしら。」などと批判したりするのを見たり聞いたりします。これらは全く間違っているとも言い切れないでしょうが、やはり悪かなことばだと思います。自分の物差しでしか他人を計れないからこういうことばが出るのだと思ふし、自分

の生き方に自信があればこんなことは言わないのだと思います。

結局、ひとりの女の足を引っぱっているのは、他の多数の女たちなのではないだろうかと思ひます。私だけではそういうことはないと思つてみても、今一度ふり返るとあれこれ思ひ浮かぶことがあるのではないのでしょうか。

## 伝言板

○3月28日、津田、岸本が婦人少年室をたすめました。近く開かれる第32回「婦人問題」を考ふる長崎のつどい」に関して、昨年の経過を踏まえて購買の深江さんと懇談。

今年もまた、花見絶賛はありません。グループで保育を考ふるなり、パパに有給休暇をとって貰うなどして、個人の努力でもって解決してほしいとのこと。今年は、会員の宮本圭子さんが提言者の一人として参加します。会員の皆さんの多数の参加を期待しています。

（山岸本）  
「婦人問題を考ふる長崎のつどい」

テーマ——男女の平等と婦人の社会参加をすすめる

（「婦人の10年」の中間年にあたって）

場所——長崎県勤労福祉会館講堂（長崎市桜町9-6）

日時——4月24日（木）12時30分～16時

○読売新聞（水）掲載の「女・からだ」（浅野博子記者）

加藤・西山さんがコピーを工部事務局へ。回費希望者は津田まで！

○5月、大阪で家庭をめぐるパネルディスカッション

・5月17日午後7時から4時まで

・大阪市東区大阪商工会議所ビル7階国際ホール

・講師 樋口恵子

・参加費 三百円

意見を募集します！

①私にとって家庭とは ②家庭内の人間関係—夫と妻、嫁と

しゅうとめなど ③お父さんと子育て ④家事の男女協力

⑤家庭と社会とのかわり

400字詰め原稿用紙3～6枚

締め切り 4月末日

送り先 大阪市東区上町三、大阪婦人会館内

国際婦人年 大阪の会

○岸本さんテレビ出演！

今月末から一年間、毎月末の火曜日に、岸本さんがKTNテ

レビ「こんにちわ長崎」のテレビ井戸端会議に、女の立場から出演します。時間は、9時30分から30分間です。皆さん是非御覧下さい。

## 図書紹介

何れも市民会館図書室に揃っています。

○女たちの近代

近代女性史研究会編

柏書房 1800円

○中高等学校

袖井孝子他

恒内出版

○第三期の女性—ライフサイクルと学習—

天野正子

現代選書学文社 1300円

○なぜ自立なのか

近藤富枝

海竜社 980円

○近代日本女性史への言言「歴史評論」編集部編

1500円

○おんながつづるおんなのくらしの年をとる

田辺聖子・中山あい子編 筑摩書房 950円

○三十歳からの出発 富田谷あつ子

読売新聞社 800円

○夫と妻のための元年学 水野肇

中央公論社 720円

編集後記——B.Wの会に入って半年。仕事の都合で夜開かれる例会には参加できません。しかし自分にできる範囲で関わり続けたく、会報の編集のお手伝いをさせて頂きました。

皆さんの御意見・御感想並びに原稿をお待ちしています。会報は会員みんなの意見（異見解）交換の場です。（吉村）